

市民説明会事前質問等 回答結果

1 実施期間

令和8年1月5日（月）から1月30日（金）

2 回答数

内容	件数
ウェブフォーム	15名
郵送	2名
合計	17名

3 内容

1 天守閣整備事業全般に関する質問等	30件
2 「復元における史実性とバリアフリーの両立」に関する質問等	18件
3 「石垣等遺構の保存」に関する質問等	5件
4 「現天守閣の価値の継承」に関する質問等	6件
5 「市民等の理解促進と機運醸成」に関する質問等	4件
合計	63件

事前質問 1 天守閣整備事業全般に関する質問等	5
1-1 木造化を中止して、現天守閣のまま、耐震、免震、制振、その他の強度補強と可能な範囲での「復元」を目指すことは選択肢にないか。	5
1-2 大幅な工期の遅延により事業費が2倍以上に膨張していると思う。あらためて見積もりをやり直して予算を明示したうえで、木造復元でいくか、新工法による現天守の耐震・バリアフリー改修に戻すべきかを検討し、議会で徹底議論すべきです。	5
1-3 財政収支は大丈夫か。新たな市民負担が数百億円も発生するならば、見直すべきだと思う。	5
1-4 木造復元天守の外観が現天守閣と大きく変わらなければ、基礎を含めて最新の建築技術を活用して進める。再度論議、検証を行い、現天守閣を解体し、バリアフリー対応、エレベーターの設置を行い、誰一人市民を取り残さない名古屋城の再建を希求する。	6
1-5 着工時期が見通せない今日、現在の物価上昇や人手不足を勘案すると、さらに事業費が上昇することが予想される。事業費の莫大さと必要性について再度市民の意向を確認する必要があると思う	7
1-6 わずか4年で竣工に至るという前提条件の中で選ばれた技術提案に基づいた受注者の選択ですので、前提が崩れた今、改めて事業主体を選考しなおすのが、公共団体としては公平な事業者選定と考える。	7
1-7 公共団体が発注する伝統的な木造建築なので、技術の継承発展に寄与する工法を採用することが求められるのではないかと。その点でも現協定に基づく事業の執行は望ましいといえず、改めて条件を整理し発注しなおすのがよいと思う。	8
1-8 説明会が広く市民に開かれていない。市民と自治体、必要に応じて業者、有識者が対等に論議を尽せるようにしたい。	8
1-9 「史実に忠実な復元」と「バリアフリー」が現在の技術では両立できないことを認め、将来こうした条件が整うまで、本事業を停止すべき。	8
1-10 平成26年6月27日に、当時の市長河村たかし氏が名古屋市議会本会議において述べた、「はっきり言っておる」とする「文化庁」とは誰の発言なのか	9
1-11 平成26年の市長見解が事実と異なっているのであれば、そうした誤認から始まった本事業について、現在、名古屋市はどのような見解を持つものか。	9
1-12 在館者2万人では8時間かかり、現在のような開場時間では受け入れることができない。名古屋城の営業時間を修正される考えは有るのか。または、2016年の収支計画について、再考されるお考えが有るか。	10
1-13 現在策定されている範囲で、避難路、避難計画をお示し願いたい。	10
1-14 避難計画に対する名古屋市消防長の見解をお示し願いたい。	10

1-15	避難計画についても、情報開示を求められれば市民に事実を示すべきではないのか。	10
1-16	「名古屋城天守閣事業の進め方について」の「3. 事業の流れ」(p.9)の図について「建築審査会の同意」については、この図中、どこに入るか。	11
1-17	市民と徹底した対話の中にこそ、事実があり、民意がある事を受け止め、徹底した情報の開示と、ごまかしのない事実に基づいて、再度、市民説明会を開催すべきである。...	11
1-18	名古屋市が一方向的に論点を定めて「市民説明会」とすることは、まさに「スケジュールありき」の一方向的な姿勢ではないのか。	11
1-19	歴史展示における多角的視点と多様性への配慮について、天守閣整備事業の展示計画において、武将や権力者の功績ばかりが強調され、歴史の裏側にあった人々の実態が軽視されている懸念がある。	11
1-20	復元は設計図がしっかり残っていればいつでも出来る。今の必要性は何か。	11
1-21	市民アンケートは平成28年6月に結果報告され、すでに10年経過している。天守閣復元についての市民意識が低下・高揚しているかどうか確認する必要があると思う。再度「市民アンケート」を実施しないか。	12
1-22	今の天守は価値がある、耐震保存活用が決まっていた。解体は現天守の解体から始まるので、これを市民に聞くべきである。	12
1-23	木造復元か現天守閣の耐震改修か、抽出アンケートでも良いので市民に問い直す計画はないのか。	13
1-24	木造復元された名古屋城は地方自治法244条の“公の施設”に当たるのか。	13
1-25	本市民説明会までに、建設費、工期、金利・起債条件、採算レンジを示せるか、示せないならその理由といつまでに示す予定か。	13
1-26	「サクラ」問題の調査の現状は。	13
1-27	2018年の「エレベーターを設置しない方針」を出した経緯。	13
1-28	議会の付帯決議を無視し、木材を約40億円購入した経緯。	14
1-29	名古屋城関係職員へのパワーハラスメント調査の現状。	14
1-30	外付けエレベーターを改造して、天守1階と同じ高さにする事は可能か。	14
2	「復元における史実性とバリアフリーの両立」に関する質問等	15
2-1	バリアフリーはおろか、消防法等、現在の建築基準適合に解が無いのは明らかで、折り合いは不可能と思う。	15
2-2	本格的な木造建築にするならば、消防法の遵守は当然だが、バリアフリーは最低限にすべきと考える。	15

- 2-3 各階層の内装を木造で構築することにより史実性を反映させ、バリアフリーやエレベーターの設置についても推し進め、「木造復元天守」施策を転換し、二度と燃えない象徴としての天守閣を再現する。 15
- 2-4 エレベーターのハード的な設置が難しいようなら、運用面でカバーすることを検討してみてもどうか。 16
- 2-5 優秀提案は「史実に忠実な復元」と法の要請する「バリアフリー」の両立を満たしていないことを認め、技術が完成するまで名古屋城天守閣整備事業を延期する考えはないか。急がなければならない理由とは何か。 16
- 2-6 天守閣の整備は木造復元ではなく、既にある史実に忠実な外観とバリアフリー完備が可能な現天守閣の耐震改修がベスト、なぜそうしないのか。 17
- 2-7 バリアフリー法は「移動等円滑化基準」を定めている。名古屋市はこの基準の適用除外を受けの方針と聞き及んでいるが、安全性の観点から重大な懸念がある。 17
- 2-8 高齢者や障害者のみならず、あらゆる利用者が館内で体調不良や災害に遭う可能性がある。 18
- 2-9 名古屋城は本市を代表する歴史的財産であり、市内の子供たちの学習の場であるべきだが、現状は障害を持つ子供たちの学習機会を奪っているという指摘がある。 18
- 2-10 公共機関には障害者差別解消法に基づく「合理的配慮」が義務付けられており、また過去の差別事案を重く受け止める必要がある。 18
- 2-11 古くからあるものに無理矢理バリアフリーにしろとかは思わないが、建て直すならみんな行けるようにするべき。ユニバーサルデザインが当たり前になってきているのに入れない人がいていいのか。 19
- 2-12 階段昇降機では難しい。基準を遵守するエレベーター（15名程）がよいのではないかと。木造化天守閣の木材や梁は変えてでもよい。 20
- 2-13 なぜバリアフリー化、エレベーター設置が、現段階ではとても小さい昇降機に限定をされているのか。 20
- 2-14 制限なく、みんな行ける、登れるくらいのバリアフリーはあるべき。 21
- 2-15 高齢者も子どもも天守閣に登るために、エレベーターを設置して欲しい。 21
- 2-16 上下移動に配慮を要する特別支援学校の子供もたちは、全く想定していないということか。小さな子どもを連れた保護者、配慮を要する高齢者等、エレベーターを必要とする方は、世界中にいるが、どのようにお考えか。 21
- 2-17 障害者差別解消法に基づく「合理的配慮」が義務付け。差別解消をどうするのか。障害者差別解消法があるので、やらなくてはいけないと思う。 22
- 2-18 物価高騰に賃金アップが追いつかない今、史実性に忠実な復元が必要か。2026年アジアパラ大会の開催地でもあり、バリアフリーは必要だと思う。 22

3 「石垣等遺構の保存」に関する質問等.....	23
3-1 石垣こそ価値があるものであり、この保存と再構築を大前提とすべき。.....	23
3-2 石垣の保存は絶対であり、現在の天守閣を壊す際に石垣が崩れるなら、現在の天守閣の耐震化の方が良いと思う。.....	23
3-3 名古屋城の石垣は築城当時の姿を残す貴重な文化財としての特別遺跡のため、修復して適切な保存が必要と考える。まずは、石垣等遺構の構築・完成を済ませてから、実施すべきと考えるが如何か。.....	23
3-4 石垣等遺構の保存に必要な予算や今までかかっている費用は、どれだけか。.....	23
3-5 「跳ね出し架構に代わる基礎構造」案について現状はどうなっているのか。.....	23
4 「現天守閣の価値の継承」に関する質問等.....	24
4-1 現天守は国宝天守焼失後、市民の要望で建てられた。そのこと自体が名古屋城の重要な歴史であり、戦争の無益さの象徴として、現天守こそ残すべき財産と思う。.....	24
4-2 現天守閣こそが戦災で焼け落ちた天守閣を市民の浄財で再建したという、名古屋市民の誇りであり、登録有形文化財とすべき。.....	24
4-3 当時も木造の設計図があったが、二度と火災で燃えないようにという市民の思いから鉄筋コンクリート造りになったものなので、簡単に壊してほしくない。.....	24
4-4 博物館としての機能と外観の継承をしていただきたい。.....	25
4-5 現天守閣を耐震改修して保全することこそ、価値の継承そのものである。なぜそうしないのか。.....	25
4-6 名古屋市はなぜ現天守閣について国の登録有形文化財への登録申請を行わないのか。木造復元という目的のために、現存する歴史資産の価値をどのように評価し、整理しているのか。.....	25
5 「市民等の理解促進と機運醸成」に関する質問等.....	26
5-1 エレベーターなどバリアフリーと本格的木造で市民の間に意見が大きく分かれているなら、無理して木造再建はしない方がよいと思う。.....	26
5-2 いまだに竣工の見通しも立たない木造復元に、市民の機運醸成など不可能。木造復元は本当に可能か。.....	26
5-3 市民などの理解促進と機運醸成には、具体的にどういったことを実施しようと予定しているか。名古屋市の予定に反した市民の意見を尊重しながら追加していくことを希望する。.....	26
5-4 会場での発言をなくすような今回の開催方法は、「市民等の理解促進と機運醸成」に逆行するのではないか。来年度の市民説明会の回数予定、会場からの意見を聞くかどうかの方針は。.....	27

1 天守閣整備事業全般に関する質問等

1-1 木造化を中止して、現天守閣のまま、耐震、免震、制振、その他の強度補強と可能な範囲での「復元」を目指すことは選択肢にないか。

回答	<p>名古屋城については、明治初期、全国の城が廃城されていく中、姫路城とともに日本の城郭の見本であるとして永久保存されることになりました。また、名古屋城は、戦災により天守や本丸御殿をはじめ焼失してしまいましたが、先人たちの努力により豊富な史資料が残されています。</p> <p>そのことから、平成30年6月に復元した本丸御殿や現存する隅櫓、門のほか、将来的には復元が可能なものは段階的に復元することで、名古屋城の象徴である本丸を江戸期の姿に再現し、特別史跡名古屋城跡の歴史や魅力を実体験していただける場所としていくこととしています。</p> <p>耐震改修などにより現天守閣を存続させる方法もありますが、本市といたしましては、特別史跡名古屋城跡の理解、活用にとって適切かつ積極的な意味を持つかという観点で、耐震改修による現天守閣存続と木造復元等を比較衡量した結果、可能な限り史実に忠実な復元がされた天守は、先に復元された本丸御殿とともに、特別史跡名古屋城跡の本質的価値の向上と理解促進にとって大きな効果が得られることから、天守を木造復元するという方針にしています。</p>
----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1-2 大幅な工期の遅延により事業費が2倍以上に膨張していると思う。あらためて見積もりをやり直して予算を明示したうえで、木造復元でいくか、新工法による現天守の耐震・バリアフリー改修に戻すべきかを検討し、議会で徹底議論すべきです。

回答	<p>事業費につきましては、優先交渉権者である竹中工務店との基本協定書はございますが、社会情勢の変動により建設業界を取り巻く環境が厳しい状況であることも十分に承知しているところであり、優先交渉権者と適宜情報共有し、適切に話し合いをしながら事業費への影響を精査した上で、事業の管理に努めます。</p> <p>また、名古屋城天守閣整備事業にかかる財源は、入場料収入により賄う計画です。竣工期限が定まっていない現在においては起債期間の見通しが立てられないため、収支計画の再算定ができない状況ではございますが、今後、事業が進ちよくし、復元検討委員会での審議が進む等の中で竣工期限が定められる段階となりましたら、改めて、入場料収入を財源とする収支計画を皆様にお示しします。</p>
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1-3 財政収支は大丈夫か。新たな市民負担が数百億円も発生するならば、見直すべきだと思う。

回答	<p>事業費につきましては、優先交渉権者である竹中工務店との基本協定書はございますが、社会情勢の変動により建設業界を取り巻く環境が厳しい状況であることも十分に承知しているところであり、優先交渉権者と適宜情報共有し、適切に話し合いをしながら事業費への影響を精査した上で、事業の管理に努めます。</p> <p>また、名古屋城天守閣整備事業にかかる財源は、入場料収入により賄う計画です。竣工期限が定まっていない現在においては起債期間の見通しが立てられないため、収支計画の再</p>
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

算定ができない状況ではございますが、今後、事業が進ちよくし、復元検討委員会での審議が進むなどの中で竣工期限が定められる段階となりましたら、改めて、入場料収入を財源とする収支計画を皆様にお示しします。

1-4 木造復元天守の外観が現天守閣と大きく変わらなければ、基礎を含めて最新の建築技術を活用して進める。再度論議、検証を行い、現天守閣を解体し、バリアフリー対応、エレベーターの設置を行い、誰一人市民を取り残さない名古屋城の再建を希求する。

回答

戦後、鉄骨鉄筋コンクリート造で再建された現在の天守閣は、平成8年度及び平成22年度に耐震診断を行ったところ、「地震の振動及び衝撃に対して、倒壊又は崩壊する危険性が高い」という極めて低い耐震性能であることがわかりました。また、コンクリートの中性化の進行、設備の老朽化、外壁モルタルの剥離の恐れなどの課題もあります。

耐震改修などにより現天守閣を存続させる方法もありますが、本市といたしましては、特別史跡名古屋城跡の理解、活用にとって適切かつ積極的な意味を持つかという観点で、耐震改修による現天守閣存続と木造復元等を比較衡量した結果、可能な限り史実に忠実な復元がされた天守は、先に復元された本丸御殿とともに、特別史跡名古屋城跡の本質的価値の向上と理解促進にとって大きな効果が得られることから、天守を木造復元するという方針にしています。

また、復元後の大天守の外観につきましては、5重（最上階）屋根は銅板素地（銅色）として、2重から4重は黒チャン（黒色油塗）仕上げとすることを計画しています。その後、経年変化により、5重屋根の銅板が酸化し、緑青（銅が酸化することにより発生する錆のことであり青緑色である）が出てくることにより、屋根の色は、明るい銅板色から濃い銅板色、そして青緑色に変化していき、5重屋根のみ緑青が出た状態の宝暦大修理後の姿となり、さらに時間が経過することで2重から5重の全てが緑青が出た状態となる外観意匠を計画しています。

また、本市が技術開発を進めている垂直昇降設備は、木造天守の柱・梁等の主架構を取り除かずに設置でき、JIS規格で定める車いす（全長120cm以内、全幅70cm以内）を使用する方と介助者との同乗が可能で、各階で乗り換えながら上層階を目指せる技術であり、木造天守のバリアフリーを実現するために有効であると考えています。

今後、当事者参画の場において垂直昇降設備と併せて、大型エレベーター等についてご説明し、ご意見をいただきます。

本市としては、木造天守の優れた伝統技術や歴史的・文化的空間を体感し、親しんでいただけるよう、可能な限り上層階まで設置することを目指して、垂直昇降設備の技術開発や設置に伴う建物側の構造・防災等の課題検討を行うとともに、バリアフリー整備相談支援事業を活用して当事者参画の場を設けるなど、障害者や高齢者等の当事者との建設的な対話による相互理解のもと、木造天守のバリアフリーの検討を丁寧に進めます。



③ 5重の銅瓦に緑青が発生した状態(宝暦大修理後の様子)



① 復元直後



② 5重の銅瓦が酸化した状態



④ 2～5重の銅瓦に緑青が発生した状態

1-5 着工時期が見通せない今日、現在の物価上昇や人手不足を勘案すると、さらに事業費が上昇することが予想される。事業費の莫大さと必要性について再度市民の意向を確認する必要があると思う

回答

事業費につきましては、優先交渉権者である竹中工務店との基本協定書はございますが、社会情勢の変動により建設業界を取り巻く環境が厳しい状況であることも十分に承知しているところであり、優先交渉権者と適宜情報共有し、適切に話し合いをしながら事業費への影響を精査した上で、事業の管理に努めます。

また、名古屋城天守閣整備事業にかかる財源は、入場料収入により賄う計画です。竣工期限が定まっていない現在においては起債期間の見通しが立てられないため、収支計画の再算定ができない状況ではございますが、今後、事業が進ちよくし、復元検討委員会での審議が進む中で竣工期限が定められる段階となりましたら、改めて、入場料収入を財源とする収支計画を皆様にお示しします。

1-6 わずか4年で竣工に至るという前提条件の中で選ばれた技術提案に基づいた受注者の選択ですので、前提が崩れた今、改めて事業主体を選考しなおすのが、公共団体としては公平な事業者選定と考える。

回答

事業期限の延長については、木造復元の実現に必要な調査・検討を行い、有識者による議論と合意形成を図ったうえで文化庁に相談するなど、事業を進めてきたことで、はじめて不確定要素であったところの課題が表面化し、その課題を解決のするための期間が必要となったものです。

	木造天守の実現に対する多くの市民の皆様からの期待に応えられるよう、課題の一つひとつに丁寧に取り組み、事業を着実に進めます。
--	---------------------------------------------------------------

1-7 公共団体が発注する伝統的な木造建築なので、技術の継承発展に寄与する工法を採用することが求められるのではないかと。その点でも現協定に基づく事業の執行は望ましいといえず、改めて条件を整理し発注しなおすのがよいと思う。

回答	<p>名古屋城天守閣整備事業の目的・意義は、「特別史跡名古屋城跡の本質的価値の向上と理解促進」であり、内部を含めて可能な限り史実に忠実に木造天守を復元し、江戸期の名古屋城本丸を体感できる歴史的・文化的空間を蘇らせることで、我が国の優れた文化と歴史、技術をより深く知ってもらうこと等としており、文化庁の復元の基準に基づき、外観のみならず内部の意匠・構造等を含めて復元するとともに、木造天守の歴史的・文化的空間を体感していただけるよう、必要な現代設備を付加することとしています。</p> <p>また、伝統工法を実践する一大事業であり、ユネスコ無形文化遺産に登録された木造建造物を受け継ぐための伝統技術の継承や職人の育成に貢献するとともに、世界最大級の木造建築物の架構が組み立てられていく復元過程を公開することなどにより伝統技術の理解を深めることができると考えています。</p>
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1-8 説明会が広く市民に開かれていない。市民と自治体、必要に応じて業者、有識者が対等に論議を尽くせるようにしたい。

回答	<p>市民説明会につきましては、事業の目的や、進ちょく状況についてお示しし、皆様の理解を深めていただくために開催するものと考えています。</p> <p>今回の説明会の運営方法につきましては、令和5年6月の「名古屋城バリアフリーに関する市民討論会」における差別事案の発生後、初めての開催であることを踏まえ、同様の問題を再発させないための対応といたしまして、従来の形式とは異なり、開会中の質疑応答は行わず事前の質問受付としました。</p> <p>お寄せいただいたご質問につきましては、説明会当日に一部回答と併せて紹介するとともに、ウェブサイトへ掲載することで、広く皆様へ公表してまいります。</p> <p>今回の開催を踏まえ、事業進ちょく等を皆様に広くお伝えできるよう、よりよい開催方法を思案しながら今後も市民説明会を開催します。</p>
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1-9 「史実に忠実な復元」と「バリアフリー」が現在の技術では両立できないことを認め、将来こうした条件が整うまで、本事業を停止すべき。

回答	戦後、鉄骨鉄筋コンクリート造で再建された現在の天守閣は、平成8年度及び平成22年度に耐震診断を行ったところ、「地震の振動及び衝撃に対して、倒壊又は崩壊する危険性が高い」という極めて低い耐震性能であることがわかりました。また、コンクリートの中性化の進行、設備の老朽化、外壁モルタルの剥離の恐れなどの課題があり、平成30年より現天守閣を閉館しています。
----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

耐震改修などにより現天守閣を存続させる方法もありますが、本市といたしましては、特別史跡名古屋城跡の理解、活用にとって適切かつ積極的な意味を持つかという観点で、耐震改修による現天守閣存続と木造復元等を比較衡量した結果、可能な限り史実に忠実な復元がされた天守は、先に復元された本丸御殿とともに、特別史跡名古屋城跡の本質的価値の向上と理解促進にとって大きな効果が得られることから、天守を木造復元するという方針にしています。

本市が技術開発を進めている垂直昇降設備は、木造天守の柱・梁等の主架構を取り除かずに設置でき、JIS規格で定める車いす（全長120cm以内、全幅70cm以内）を使用する方と介助者との同乗が可能で、各階で乗り換えながら上層階を目指せる技術であり、木造天守のバリアフリーを実現するために有効であると考えています。

今後、当事者参画の場において垂直昇降設備と併せて、大型エレベーター等についてご説明し、ご意見をいただきます。

本市としては、木造天守の優れた伝統技術や歴史的・文化的空間を体感し、親しんでいただけるよう、可能な限り上層階まで設置することを目指して、垂直昇降設備の技術開発や設置に伴う建物側の構造・防災等の課題検討を行うとともに、バリアフリー整備相談支援事業を活用して当事者参画の場を設けるなど、障害者や高齢者等の当事者との建設的な対話による相互理解のもと、木造天守のバリアフリーの検討を丁寧に進めます。

1-10 平成26年6月27日に、当時の市長河村たかし氏が名古屋市議会本会議において述べた、「はっきり言っておる」とする「文化庁」とは誰の発言なのか

回答
ご指摘の件については、平成26年6月27日の本会議質問において、議員から「名古屋城の再建をするにあたって、文化庁は、史実と異なる鉄骨鉄筋コンクリートでは建て替えができないとの見解を示しています」との発言を受けて、前市長が当該議員の発言を引用して発言されたものと認識していますが、当該議員が文化庁へ確認した内容については承知しておりません。

1-11 平成26年の市長見解が事実と異なっているのであれば、そうした誤認から始まった本事業について、現在、名古屋市はどのような見解を持つものか。

回答
文化庁の見解に係る当局の認識につきまして、平成27年6月の経済水道委員会においてご指摘をいただき、文化庁に確認したところ、「天守の再建については、整備主体である地元の自治体がどのような整備を行うか考えることが第一」、「天守を復元する場合は、原則として材料等は同時代のものを踏襲する必要があるが、それ以外の可能性を排除するものではない」、「名古屋城天守閣については往時の資料が十分そろっていることを踏まえると復元検討委員会において木造によるできうる限り史実に忠実な復元をすべきとの意見が出される可能性が極めて高いと考えられる」との回答を得たため、同年7月の同委員会において、文化庁の見解について誤認があった旨を議会へ報告・謝罪しました。

その後、平成28年5月に、「名古屋城天守閣の整備方針」に係る2万人アンケートでは木造復元を行うか現天守閣の耐震工事を行うか、どちらの可能性もある形でアンケートを取らせていただきました。

	この2万人アンケートにおいて、回答者の6割以上の方に木造復元に賛同いただけたことは、木造復元に対する市民の思いの表れであると受け止めています。
--	-------------------------------------------------------------------------

1-12 在館者2万人では8時間かかり、現在のような開場時間では受け入れることができない。名古屋城の営業時間を修正される考えは有るのか。または、2016年の収支計画について、再考されるお考えが有るか。

回答	名古屋城の開門時間は午前9時から午後5時までの8時間となります。 天守への入場可能時間につきましては竣工直後の多客期や通常期、催事実施時といったニーズの変化に合わせて検討していくものと考えています。 なお、名古屋城天守閣整備事業にかかる財源は、入場料収入により賅う計画です。竣工期限が定まっていない現在においては起債期間の見通しが立てられないため、収支計画の再算定ができない状況ではございますが、今後、事業が進ちよくし、復元検討委員会での審議が進む中で竣工期限が定められる段階となりましたら、改めて、入場料収入を財源とする収支計画を皆様にお示しします。
----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1-13 現在策定されている範囲で、避難路、避難計画をお示し願いたい。

回答	連立式天守である名古屋城天守は、小天守のみが直接地上に通じる構成であるため、大天守からは小天守を通り外部に避難をすることになります。大天守・小天守を一体的にみなした防災・避難計画とし、復元への防災・避難設備の付加（スプリンクラーや屋内消火栓、3階～4階への付加階段など）により、観覧者の安全を確保する計画としています。既に防災・避難計画にかかる第三者評定を取得し、安全性を確認している状況であります。現在、垂直昇降設備を設置する場合の安全性を確認するものとして、評定の再取得に向けての検討をしています。
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1-14 避難計画に対する名古屋市消防長の見解をお示し願いたい。

回答	消防局からは、「煙感知器による火災の早期発見、消火器やスプリンクラーによる初期消火対策など、消防法により必要となる設備等を計画するとともに、監視カメラによる放火対策や可燃物の持ち込み制限による徹底した出火防止対策を図るなど、利用者の皆様の安全な避難が確保できるよう計画されたい。」との見解を伺っています。
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1-15 避難計画についても、情報開示を求められれば市民に事実を示すべきではないのか。

回答	防災・避難計画については、公共の安全と秩序の維持に支障が生ずるおそれがある情報や、防災・避難計画策定における事業者の技術上のノウハウに関する情報を含むことから一部非公開としていますが、今後の情報公開についても、本市情報公開条例に則り、適切に対応いたします。
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1-16 「名古屋城天守閣事業の進め方について」の「3. 事業の流れ」(p.9)の図について「建築審査会の同意」については、この図中、どこに入るか。

回答	基礎構造を決定し、整備基本計画の修正をして現状変更許可を取得した後になります。
----	-----------------------------------------

1-17 市民と徹底した対話の中にこそ、事実があり、民意がある事を受け止め、徹底した情報の開示と、ごまかしのない事実に基づいて、再度、市民説明会を開催すべきである。

回答	今回の説明会につきましては、令和5年6月の「名古屋城バリアフリーに関する市民討論会」における差別事案の発生後、初めての開催であることを踏まえ、同様の問題を再発させないための対応といたしまして、従来の形式とは異なり、開会中の質疑応答は行わず事前の質問受付としました。 今回の開催を踏まえ、事業進ちよく等を皆様に広くお伝えできるよう、よりよい開催方法を思案しながら今後も市民説明会を開催します。
----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1-18 名古屋市が一方向的に論点を定めて「市民説明会」とすることは、まさに「スケジュールありき」の一方向的な姿勢ではないのか。

回答	市民説明会につきましては、事業の目的や、進ちよく状況についてお示しし、皆様の理解を深めていただくために開催するものと考えています。 今回の説明会につきましては、令和5年6月の「名古屋城バリアフリーに関する市民討論会」における差別事案の発生後、初めての開催であることを踏まえ、同様の問題を再発させないための対応といたしまして、従来の形式とは異なり、開会中の質疑応答は行わず事前の質問受付としました。 今回の開催を踏まえ、事業進ちよく等を皆様に広くお伝えできるよう、よりよい開催方法を思案しながら今後も市民説明会を開催します。
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1-19 歴史展示における多角的視点と多様性への配慮について、天守閣整備事業の展示計画において、武将や権力者の功績ばかりが強調され、歴史の裏側にあった人々の実態が軽視されている懸念がある。

回答	木造天守の展示については、建築空間そのものが一番の見どころであり、その空間を天守の主役と考えています。 また、滞留防止のため、シンプルでわかりやすい展示を心がけてまいります。
----	--------------------------------------------------------------------------------------------

1-20 復元は設計図がしっかり残っていればいつでも出来る。今の必要性は何か。

回答	戦後、鉄骨鉄筋コンクリート造で再建された現在の天守閣は、平成8年度及び平成22年度に耐震診断を行ったところ、「地震の振動及び衝撃に対して、倒壊又は崩壊する危険性が高い」という極めて低い耐震性能であることがわかりました。また、コンクリートの中性化の進行、設備の老朽化、外壁モルタルの剥離の恐れなどの課題もあります。
----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	耐震改修などにより現天守閣を存続させる方法もありますが、本市といたしましては、特別史跡名古屋城跡の理解、活用にとって適切かつ積極的な意味を持つかという観点で、耐震改修による現天守閣存続と木造復元等を比較衡量した結果、可能な限り史実に忠実な復元がされた天守は、先に復元された本丸御殿とともに、特別史跡名古屋城跡の本質的価値の向上と理解促進にとって大きな効果が得られることから、天守を木造復元するという方針にしています。
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1-2 1 市民アンケートは平成 28 年 6 月に結果報告され、すでに 10 年経過している。天守閣復元についての市民意識が低下・高揚しているかどうか確認する必要があると思う。再度「市民アンケート」を実施しないか。

回答	「名古屋城天守閣の整備方針」に係るアンケートにつきましては、平成 28 年 5 月に実施し、回答の 6 割以上の方に木造化を支持いただきました。本市といたしましては特別史跡名古屋城跡の理解、活用にとって適切かつ積極的な意味を持つかという観点で、耐震改修による現天守閣存続と木造復元等を比較衡量した結果、可能な限り史実に忠実な復元がされた天守は、先に復元された本丸御殿とともに、特別史跡名古屋城跡の本質的価値の向上と理解促進にとって大きな効果が得られることから、天守を木造復元するという方針にしていますので整備方針を見直すために、改めてアンケートを取るといような予定はございません。
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1-2 2 今の天守は価値がある、耐震保存活用が決まっていた。解体は現天守の解体から始まるので、これを市民に聞くべきである。

回答	<p>戦後、鉄骨鉄筋コンクリート造で再建された現在の天守閣は、平成 8 年度及び平成 22 年度に耐震診断を行ったところ、「地震の振動及び衝撃に対して、倒壊又は崩壊する危険性が高い」という極めて低い耐震性能であることがわかりました。また、コンクリートの中性化の進行、設備の老朽化、外壁モルタルの剥離の恐れなどの課題もあります。</p> <p>耐震改修などにより現天守閣を存続させる方法もありますが、特別史跡名古屋城跡の理解、活用にとって適切かつ積極的な意味を持つかという観点で、耐震改修による現天守閣存続と木造復元等を比較衡量した結果、可能な限り史実に忠実な復元がされた天守は、先に復元された本丸御殿とともに、本質的価値の向上と理解促進にとって大きな効果が得られることから、天守を木造復元するという方針にしていますので整備方針を見直すために、改めてアンケートを取るといような予定はございません。</p> <p>現天守閣は新しい時代に即した天守閣を再建した戦後をという一時代を象徴する建造物であり、本市のシンボルとして市民の愛着や誇りを醸成し、都市のイメージを対外的に発信し続けてきた意義が大きいことから、現天守閣を市民の記憶に留め、現天守閣の記録・記憶を後世につないでいくため、再建当時の図面、写真、新聞等記録の保存や市民の皆様等の思い出のアーカイブ化等の取り組みを検討しています。</p>
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1-23 木造復元か現天守閣の耐震改修か、抽出アンケートでも良いので市民に問い直す計画はないのか。

回答	「名古屋城天守閣の整備方針」に係るアンケートにつきましては、平成28年5月に実施し、回答の6割以上の方に木造化を支持いただきました。本市といたしましては特別史跡名古屋城跡の理解、活用にとって適切かつ積極的な意味を持つかという観点で、耐震改修による現天守閣存続と木造復元等を比較衡量した結果、可能な限り史実に忠実な復元がされた天守は、先に復元された本丸御殿とともに、特別史跡名古屋城跡の本質的価値の向上と理解促進にとって大きな効果が得られることから、天守を木造復元するという方針にしていますので整備方針を見直すために、改めてアンケートを取るといような予定はございません。
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1-24 木造復元された名古屋城は地方自治法244条の“公の施設”に当たるのか。

回答	名古屋城は都市公園である名城公園の一部であり、公の施設です。 公の施設として多くの方にご利用いただけるよう、本市といたしましては史実性とバリアフリーの両立を目指し、垂直昇降設備の技術開発を進めています。
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

1-25 本市民説明会までに、建設費、工期、金利・起債条件、採算レンジを示せるか、示せないならその理由といつまでに示す予定か。

回答	竣工期限が定まっていない現在においては起債期間の見通しが立てられないため、収支計画の再算定ができない状況ではございますが、今後、事業が進ちょくし、復元検討委員会での審議が進む等の中で竣工期限が定められる段階となりましたら、改めて、収支計画を皆様にお示しします。
----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1-26 「サクラ」問題の調査の現状は。

回答	名古屋城天守閣木造復元市民向け説明会検証部会において検証をした結果、公平性・公正性に疑念を抱かせるような事項は新たに確認されなかった旨、令和6年5月31日および同年6月18日に議会へお示ししました。
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

1-27 2018年の「エレベーターを設置しない方針」を出した経緯。

回答	乗員が4人程度の小型エレベーターにつきましては、かご（乗用部分）の大きさが幅80cm、奥行き100cm程度となり、乗ることができる車いすも小型なものに限定され、よく使用されている車椅子単体（人を含まず）の大きさは、幅65cm、長さ100cm程度であることからかごの大きさは十分ではないことと、大天守の地階から3階までの昇降とした場合、大梁を一部切り欠くこととなるため、史実との乖離が生じるとの結果を踏まえ、平成30年5月に「史実に忠実に復元するためエレベーターを設置せず、新技術の開発などを通してバリアフリーに最善の努力をする。」と記載をした「付加設備の方針」を示しました。
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1-28 議会の付帯決議を無視し、木材を約 40 億円購入した経緯。

回答	<p>木材の購入については、平成 30 年度の 6 月定例会において、「木材の調達にあたっては、文化庁から与えられた課題を確実に解決し、現状変更許可の見通しを立てた上で計画的に行うこと。」との要望を頂いており、市として、プロポーザルに基づき調達が必要であり、現状変更許可取得に全力で取り組む認識のもと、平成 30 年 7 月に、「名古屋城天守閣整備事業先行工事」として約 9.5 億円の契約締結を行い、平成 30 年及び令和元年に、主要な木材の調達を行いました。</p> <p>このタイミングで契約した理由としては、木造天守復元に使用する柱や梁は、簡単には手に入らない長尺大径木で、工程や買い付けの調査調整のため、当時に買わないと二度と手に入らない貴重な木材であったためです。</p> <p>当初契約した時点は、2022 年 12 月の竣工期限に向け、平成 30 年 10 月の文化審議会で審議いただくことを見込んでおり、その後、解体先行の方針に変更し、令和元年 5 月の文化審議会で審議いただくことを見込んでおりました。また、令和元年 8 月の竣工期限を延期するとした後は、新たな工程の素案として 2028 年の竣工を前提としたスケジュールに基づく見通しの中で木材の調達を進めていました。</p> <p>しかしながら、竣工期限については、令和 3 年 11 月の経済水道委員会において、復元検討委員会での審議が進むなど、現状変更許可の見通しが得られるまで竣工期限を定めないこととしました。</p> <p>そのため、結果的には、議会からの要望に沿わない状況となってしまいましたが、木材の調達については、市として、一定の現状変更許可の見通しのもと進めてきたものと認識しています。</p>
----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1-29 名古屋城関係職員へのパワーハラスメント調査の現状。

回答	<p>本案件は、令和 6 年 11 月に第三者調査委員会が立ち上げられ、令和 8 年 3 月 24 日に調査結果を公表しております。報告書については名古屋市公式ウェブサイトでご覧いただけます。</p> <p>URL: https://www.city.nagoya.jp/shisei/saiyou/1004517/1004519/1004521.html</p>
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1-30 外付けエレベーターを改造して、天守 1 階と同じ高さにすることは可能か。

回答	<p>現在の外付けエレベーター棟の渡り廊下は、現天守閣とも構造的に接続されています。木造天守の場合は、外付けエレベーター棟の渡り廊下は、エレベーター棟だけで保持する必要がある等、現エレベーター棟を改造し使用することは困難であると認識しています。</p>
----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 「復元における史実性とバリアフリーの両立」に関する質問等

2-1 バリアフリーはおろか、消防法等、現在の建築基準適合に解が無いのは明らかで、折り合いは不可能と思う。

回答	<p>本事業においては、「特別史跡名古屋城跡の本質的価値の向上と理解促進」を目的に掲げており、文化庁の「史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準」に基づく復元として、豊富な史資料により、外観のみならず内部の意匠・構造等を含めて、可能な限り史実に忠実に天守を復元するとともに、多くの方に木造天守の歴史的・文化的空間を体感していただけるよう、防災や観覧のために必要となる現代設備を付加的に設置することとしています。</p> <p>木造天守は、広く観覧の用に供することを前提としているため、構造計画や防災・避難計画について必要な安全性を確保し、第三者機関からの評定等を取得することとしています。</p>
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2-2 本格的な木造建築にするならば、消防法の遵守は当然だが、バリアフリーは最低限にすべきと考える。

回答	<p>共生社会の実現を目指す現代における歴史的建造物の復元として、多くの方が快適に観覧できるよう、バリアフリー整備を進めることは非常に重要なことだと認識しています。</p> <p>特別史跡内での整備という特殊性がある中で、特別史跡名古屋城跡の本質的価値の理解のための史実性の確保や、内部を観覧するために必要となるバリアフリー、防災上の安全性の確保など、事業目的を達成するための様々な要素について、優劣をつけるのではなく、いかに両立されるかという観点で検討することが必要と考えています。</p> <p>バリアフリー方針の決定にあたっては、昇降設備を設置した場合における技術的な側面や、遺構等保存の観点での影響等を含めて、当事者参画の場である「バリアフリー整備相談支援事業」を活用し、当事者の皆様との建設的な対話による相互理解のもと、方針をとりまとめてまいります。</p>
----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2-3 各階層の内装を木造で構築することにより史実性を反映させ、バリアフリーやエレベーターの設置についても推し進め、「木造復元天守」施策を転換し、二度と燃えない象徴としての天守閣を再現する。

回答	<p>名古屋城天守閣整備事業の目的・意義は、「特別史跡名古屋城跡の本質的価値の向上と理解促進」であり、内部を含めて可能な限り史実に忠実に木造天守を復元し、江戸期の名古屋城本丸を体感できる歴史的・文化的空間を蘇らせることで、我が国の優れた文化と歴史、技術をより深く知ってもらうこと等としています。</p> <p>文化庁の復元の基準では、「復元後の歴史的建造物が規模・構造・形式等において高い蓋然性をもつこと」として、忠実性を軸とする考え方が示されている一方で、配慮事項として、「防災上の安全性を確保すること」として、史跡等の価値を広く知ってもらうための</p>
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

活用として、必要な機能や設備を付加するなど、現代設備を設置することも前提とされています。

復元の基準に基づき、「可能な限り史実に忠実な復元と現代設備を付加」するため、遺構の保存に十分配慮した上で、史資料の調査研究に基づき、規模・構造・形式等に高い蓋然性を確保するとともに、多くの方が天守内部に入り、歴史的・文化的空間を体験していただけるよう、防災上やバリアフリーの配慮に必要な付加設備について、当事者の皆様とともに検討してまいりたいと考えています。

2-4 エレベーターのハード的な設置が難しいようなら、運用面でカバーすることを検討してはいかがでしょうか。

回答

木造天守のバリアフリーについては、従来から、垂直移動の方法として、昇降設備の設置範囲の方針について、特に課題となっていますが、昇降設備だけでなく、木造天守全体のバリアフリーについて、皆さまからご意見をいただきながら、検討を行ってまいりたいと考えています。

そのため、本事業の計画・設計を行っている現段階から、施工段階を含め、継続的、段階的に、当事者参画の場で検討してまいります。

このほかにも、管理・運用面を含めて、必要な検討事項があるかとは思いますが、多くの方が、快適に木造天守を観覧し、親しんでいただける環境となるよう、様々なご意見・ご要望をいただきながら、進めてまいりたいと考えています。

2-5 優秀提案は「史実に忠実な復元」と法の要請する「バリアフリー」の両立を満たしていないことを認め、技術が完成するまで名古屋城天守閣整備事業を延期する考えはないか。急がなければならない理由とは何か。

回答

復元する木造天守は、建築基準法第3条第1項第4号の認定を受けることにより、バリアフリー法の建築物移動等円滑化基準への適合義務の対象外となるものと想定していますが、バリアフリー法や障害者基本法をはじめ関係法令等の趣旨を踏まえ、障害のある人もない人も共に天守を観覧していただけるよう、事業目的の範囲でバリアフリーを推進する必要があると考えており、史実性とバリアフリーの両立を目指しています。

本市が技術開発を進めている垂直昇降設備は、木造天守の柱・梁等の主架構を取り除かずに設置でき、JIS規格で定める車いす（全長120cm以内、全幅70cm以内）を使用する方と介助者との同乗が可能で、各階で乗り換えながら上層階を目指せる技術であり、木造天守のバリアフリーを実現するために有効であると考えています。

今後、当事者参画の場において垂直昇降設備と併せて、大型エレベーター等についてご説明し、ご意見をいただきます。

本市としては、木造天守の優れた伝統技術や歴史的・文化的空間を体感し、親しんでいただけるよう、可能な限り上層階まで設置することを目指して、垂直昇降設備の技術開発や設置に伴う建物側の構造・防災等の課題検討を行うとともに、バリアフリー整備相談支援

事業を活用して当事者参画の場を設けるなど、障害者や高齢者等の当事者との建設的な対話による相互理解のもと、木造天守のバリアフリーの検討を丁寧に進めます。

2-6 天守閣の整備は木造復元ではなく、既にある史実に忠実な外観とバリアフリー完備が可能な現天守閣の耐震改修がベスト、なぜそうしないのか。

回答 名古屋城天守閣整備事業の目的・意義は、「特別史跡名古屋城跡の本質的価値の向上と理解促進」であり、内部を含めて可能な限り史実に忠実に木造天守を復元し、江戸期の名古屋城本丸を体感できる歴史的・文化的空間を蘇らせることで、我が国の優れた文化と歴史、技術をより深く知ってもらうこと等としています。

文化庁の「史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準」に基づく「復元」として、豊富な史資料により、外観のみならず内部の意匠・構造等を含めて、可能な限り史実に忠実に天守を復元するとともに、多くの方に木造天守の歴史的・文化的空間を体感していただけるものとしています。

2-7 バリアフリー法は「移動等円滑化基準」を定めている。名古屋市はこの基準の適用除外を受ける方針と聞き及んでいるが、安全性の観点から重大な懸念がある。

回答 1. 復元する木造天守には、階段へ手すりを付加するとともに、階段の開口部には転落防止のため柵を設置し、階段部や開口部等の危険箇所においてはスタッフを配置することを計画しています。

2. 国家賠償法では、道路、河川その他の公の営造物の設置又は管理に瑕疵があったために他人に損害を生じたときは、国又は公共団体は、これを賠償する責に任ずるとされています。

エレベーターを設置している建物であっても、災害時には閉じ込められる危険があることから、エレベーターは使用しないものとしています。天守の運営にあたっては、復元への防災・避難設備の付加（スプリンクラーや屋内消火栓、3階～4階への付加階段など）により、観覧者の安全を確保してまいります。

3. バリアフリー法の建築物移動等円滑化基準に対応するエレベーターについては、内部に設置する場合は、木造天守の柱・梁等の主架構を取り除く必要があり、伝統的な木造軸組建築である木造天守の構造、形式等に高い蓋然性を確保することが困難であり、外部に設置する場合は、相当規模の構造物を新設する必要があり、名古屋城本丸における天守の歴史的な景観と、特別史跡の地下遺構の保存に影響を及ぼすこととなります。

本市が検討を進めている垂直昇降設備は、木造天守の柱・梁等の主架構を取り除かずに設置でき、JIS規格で定める車いす（全長120cm以内、全幅70cm以内）を使用する方と介助者との同乗が可能で、各階で乗り換えながら上層階を目指せる技術であり、木造天守のバリアフリーを実現するために有効であると考えています。

今後、当事者参画の場において垂直昇降設備と合わせて、大型エレベーター等についてご説明し、ご意見をいただきます。

4. 復元する木造天守は、建築基準法第3条第1項第4号の認定を受けることにより、バリアフリー法の建築物移動等円滑化基準への適合義務の対象外となるものと想定していますが、障害者基本法をはじめ関係法令等の趣旨を踏まえ、障害のある人もない人も共に天守を観覧していただけるよう、事業目的の範囲でバリアフリーを推進する必要があると考えており、史実性とバリアフリーの両立を目指しています。

2-8 高齢者や障害者のみならず、あらゆる利用者が館内で体調不良や災害に遭う可能性がある。

回答 1. 令和4年度の名古屋城木造天守の昇降技術に関する公募」で選定した垂直昇降設備は、予備電源及び耐火構造等を有している非常用エレベーターの機能は有していませんが、一般のエレベーターと同様に災害時に最寄階まで昇降した後に扉を開いた状態で稼働を停止させる機能を有しています。

2. 急病人の発見を迅速に行うためにスタッフの配置及びITVカメラの設置を行います。自力歩行が不可能となった場合は、各階に設置する車いすに乗っていただき、垂直昇降設備での搬送や救急隊がストレッチャーを用いて階段の昇降等の対応が挙げられます。垂直昇降設備の運用につきましては、今後詳細に検討してまいります。

2-9 名古屋城は本市を代表する歴史的財産であり、市内の子供たちの学習の場であるべきだが、現状は障害を持つ子供たちの学習機会を奪っているという指摘がある。

回答 1. 名古屋城内のバリアフリーの取り組みにつきましては、障害当事者や障害者団体からご意見をお伺いし、課題解決に向けて取り組みを進めています。具体的には、城内トイレを改修し、障害のある方などが快適にご利用いただけるようにバリアフリートイレを整備するとともに、一部のトイレではおむつを交換できるよう大型ベッドを設置いたしました。また、車椅子を利用される方が見やすくなるよう盤面を低くした解説看板の整備を進めています。令和8年度には、車椅子を利用される方などが安全にご観覧いただけるように、園路改修工事の実施を予定しています。また、令和8年度に、視覚障害のある方などが触って楽しめるよう、本丸御殿内に触れる木の展示を予定しているところです。引き続き、障害当事者や障害者団体のご意見を伺いながら、課題を解決できるよう取り組んでまいります。

2. 名古屋城では障害者手帳をお持ちの方につき本人様を含め3名まで無料となりますので、手帳を提示する形でお越しいただいている学校については把握していません。一方で、減免の申し出があった特別支援学校の件数は、R7年12月末時点101件1,082人、R6年度49件919人、R5年度29件569人、R4年度16件270人、R3年度8件132人です。

2-10 公共機関には障害者差別解消法に基づく「合理的配慮」が義務付けられており、また過去の差別事案を重く受け止める必要がある。

回答 名古屋城天守閣整備事業の目的・意義は、「特別史跡名古屋城跡の本質的価値の向上と理解促進」であり、内部を含めて可能な限り史実に忠実に木造天守を復元し、江戸期の名古屋城本丸を体感できる歴史的・文化的空間を蘇らせることで、我が国の優れた文化と歴

史、技術をより深く知ってもらうこと等としており、文化庁の復元の基準に基づき、外観のみならず内部の意匠・構造等を含めて、可能な限り史実に忠実に天守を復元するとともに、多くの方に木造天守の歴史的・文化的空間を体感していただけるよう、必要な現代設備を付加することとしています。

なお、バリアフリー法の建築物移動等円滑化基準に対応するエレベーターについては、内部に設置する場合は、木造天守の柱・梁等の主架構を取り除く必要があり、伝統的な木造軸組建築である木造天守の構造、形式等に高い蓋然性を確保することが困難であり、外部に設置する場合は、相当規模の構造物を新設する必要があり、名古屋城本丸における天守の歴史的な景観と、特別史跡の地下遺構の保存に影響を及ぼすことになります。

本市が検討を進めている垂直昇降設備は、木造天守の柱・梁等の主架構を取り除かずに設置でき、JIS規格で定める車いす（全長120cm以内、全幅70cm以内）を使用する方と介助者との同乗が可能で、各階で乗り換えながら上層階を目指せる技術であり、木造天守のバリアフリーを実現するために有効であると考えています。

今後、当事者参画の場において垂直昇降設備と合わせて、大型エレベーター等についてご説明し、ご意見をいただきます。

2-11 古くからあるものに無理矢理バリアフリーにしろとかは思わないが、建て直すならみんな行けるようにするべき。ユニバーサルデザインが当たり前になってきているのに入れない人がいていいのか。

回答

社会要請としてバリアフリーは重要であり、復元する木造天守は、建築基準法第3条第1項第4号の認定を受けることにより、バリアフリー法の建築物移動等円滑化基準への適合義務の対象外となるものと想定していますが、バリアフリー法や障害者基本法をはじめ関係法令等の趣旨を踏まえ、障害のある人もない人も共に天守を観覧していただけるよう、事業目的の範囲でバリアフリーを推進する必要があると考えており、史実性とバリアフリーの両立を目指しています。

本市が技術開発を進めている垂直昇降設備は、木造天守の柱・梁等の主架構を取り除かずに設置でき、JIS規格で定める車いす（全長120cm以内、全幅70cm以内）を使用する方と介助者との同乗が可能で、各階で乗り換えながら上層階を目指せる技術であり、木造天守の史実性とバリアフリーを両立するために有効であると考えています。

一方で、大型エレベーターを設置してほしいとの意見もあることから、今後、当事者参画の場において垂直昇降設備だけではなく、大型エレベーターを設置した場合についてもご説明し、ご意見をいただきます。

木造天守の優れた伝統技術や歴史的・文化的空間を体感し、親しんでいただけるよう、木造天守のバリアフリーの検討を丁寧に進めます。

2-12 階段昇降機では難しい。基準を遵守するエレベーター（15名程）がよいのではないかと。木造化天守閣の木材や梁は変えてでもよい。

回答	<p>名古屋城天守閣整備事業の目的・意義は、「特別史跡名古屋城跡の本質的価値の向上と理解促進」であり、内部を含めて可能な限り史実に忠実に木造天守を復元し、江戸期の名古屋城本丸を体感できる歴史的・文化的空間を蘇らせることで、我が国の優れた文化と歴史、技術をより深く知ってもらうこと等としています。</p> <p>バリアフリー法の建築物移動等円滑化基準に対応するエレベーターについては、内部に設置する場合は、木造天守の柱・梁等の主架構を取り除く必要があり、伝統的な木造軸組建築である木造天守の構造、形式等に高い蓋然性を確保することが困難であり、外部に設置する場合は、相当規模の構造物を新設する必要があり、名古屋城本丸における天守の歴史的な景観と、特別史跡の地下遺構の保存に影響を及ぼすことになります。</p> <p>本市が検討を進めている垂直昇降設備は、木造天守の柱・梁等の主架構を取り除かずに設置でき、JIS規格で定める車いす（全長120cm以内、全幅70cm以内）を使用する方と介助者との同乗が可能で、各階で乗り換えながら上層階を目指せる技術であり、木造天守のバリアフリーを実現するために有効であると考えています。</p> <p>今後、当事者参画の場において垂直昇降設備と合わせて、大型エレベーター等についてご説明し、ご意見をいただきます。</p>
----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2-13 なぜバリアフリー化、エレベーター設置が、現段階ではとても小さい昇降機に限定をされているのか。

回答	<p>名古屋城天守閣整備事業の目的・意義は、「特別史跡名古屋城跡の本質的価値の向上と理解促進」であり、内部を含めて可能な限り史実に忠実に木造天守を復元し、江戸期の名古屋城本丸を体感できる歴史的・文化的空間を蘇らせることで、我が国の優れた文化と歴史、技術をより深く知ってもらうこと等としています。</p> <p>文化庁の「史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準」に基づく「復元」として、豊富な史資料により、外観のみならず内部の意匠・構造等を含めて、可能な限り史実に忠実に天守を復元するとともに、多くの方に木造天守の歴史的・文化的空間を体感していただけるよう、防災や観覧のために必要となる現代設備を付加することとしています。</p> <p>特に、社会要請としてバリアフリーは重要であり、復元する木造天守は、建築基準法第3条第1項第4号の認定を受けることにより、バリアフリー法の建築物移動等円滑化基準への適合義務の対象外となるものと想定していますが、バリアフリー法や障害者基本法をはじめ関係法令等の趣旨を踏まえ、障害のある人もない人も共に天守を観覧していただけるよう、事業目的の範囲でバリアフリーを推進する必要があると考えており、史実性とバリアフリーの両立を目指しています。</p> <p>現在開発している垂直昇降設備のかごのサイズにつきましては、内寸奥行1,350mm×幅955mmで熊本城の5階から6階までを昇降できる7人乗りエレベーターにつきましては内寸奥行1,500mm×幅900mmと大きく差のないものとなっています。</p>
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>本市が検討を進めている垂直昇降設備は、木造天守の柱・梁等の主架構を取り除かずに設置でき、JIS規格で定める車いす（全長120cm以内、全幅70cm以内）を使用する方と介助者との同乗が可能で、各階で乗り換えながら上層階を目指せる技術であり、木造天守のバリアフリーを実現するために有効であると考えています。</p> <p>今後、当事者参画の場において垂直昇降設備と合わせて、大型エレベーター等についてご説明し、ご意見をいただきます。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2-14 制限なく、みんな行ける、登れるくらいのバリアフリーはあるべき。

<p>回答</p>	<p>本市としては、より多くの方に木造天守の優れた伝統技術や歴史的・文化的空間を体感し、親しんでいただけるよう、可能な限り上層階まで設置することを目指して、垂直昇降設備の技術開発や設置に伴う建物側の構造・防災等の課題検討を行うとともに、障害者や高齢者等の当事者との建設的な対話による相互理解のもと、木造天守のバリアフリーの検討を丁寧に進めます。</p>
-----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2-15 高齢者も子どもも天守閣に登るために、エレベーターを設置して欲しい。

<p>回答</p>	<p>名古屋城天守閣整備事業の目的・意義は、「特別史跡名古屋城跡の本質的価値の向上と理解促進」であり、内部を含めて可能な限り史実に忠実に木造天守を復元し、江戸期の名古屋城本丸を体感できる歴史的・文化的空間を蘇らせることで、我が国の優れた文化と歴史、技術をより深く知ってもらうこと等としています。</p> <p>バリアフリー法の建築物移動等円滑化基準に対応するエレベーターについては、内部に設置する場合は、木造天守の柱・梁等の主架構を取り除く必要があり、伝統的な木造軸組建築である木造天守の構造、形式等に高い蓋然性を確保することが困難であり、外部に設置する場合は、相当規模の構造物を新設する必要があり、名古屋城本丸における天守の歴史的な景観と、特別史跡の地下遺構の保存に影響を及ぼすこととなります。</p> <p>本市が検討を進めている垂直昇降設備は、木造天守の柱・梁等の主架構を取り除かずに設置でき、JIS規格で定める車いす（全長120cm以内、全幅70cm以内）を使用する方と介助者との同乗が可能で、各階で乗り換えながら上層階を目指せる技術であり、木造天守のバリアフリーを実現するために有効であると考えています。</p> <p>今後、当事者参画の場において垂直昇降設備と合わせて、大型エレベーター等についてご説明し、ご意見をいただきます。</p>
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2-16 上下移動に配慮を要する特別支援学校の子どもたちは、全く想定していないということか。小さな子どもを連れた保護者、配慮を要する高齢者等、エレベーターを必要とする方は、世界中にいるが、どのようにお考えか。

<p>回答</p>	<p>名古屋城天守閣整備事業の目的・意義は、「特別史跡名古屋城跡の本質的価値の向上と理解促進」であり、内部を含めて可能な限り史実に忠実に木造天守を復元し、江戸期の名古屋城本丸を体感できる歴史的・文化的空間を蘇らせることで、我が国の優れた文化と歴史、技術をより深く知ってもらうこと等としています。</p>
-----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

バリアフリー法の建築物移動等円滑化基準に対応するエレベーターについては、内部に設置する場合は、木造天守の柱・梁等の主架構を取り除く必要があり、伝統的な木造軸組建築である木造天守の構造、形式等に高い蓋然性を確保することが困難であり、外部に設置する場合は、相当規模の構造物を新設する必要があり、名古屋城本丸における天守の歴史的な景観と、特別史跡の地下遺構の保存に影響を及ぼすこととなります。

本市が検討を進めている垂直昇降設備は、木造天守の柱・梁等の主架構を取り除かずに設置でき、JIS規格で定める車いす（全長120cm以内、全幅70cm以内）を使用する方と介助者との同乗が可能で、各階で乗り換えながら上層階を目指せる技術であり、木造天守のバリアフリーを実現するために有効であると考えています。

今後、当事者参画の場において垂直昇降設備と合わせて、大型エレベーター等についてご説明し、ご意見をいただきます。

2-17 障害者差別解消法に基づく「合理的配慮」が義務付け。差別解消をどうするのか。障害者差別解消法があるので、やらなくてはいけないと思う。

回答 「合理的配慮」については、その提供にあたり、障害のある人と事業者等との間の「建設的対話」を通じて相互理解を深め史実性とバリアフリーの両立を目指し、共に対処案を検討することとなります。

そのため、本市としては、高齢者、障害者等の配慮を要する当事者と対話を重ね、環境の整備のための昇降技術の公募を実施してきており、天守閣整備事業の目的の範囲でバリアフリー対応を検討していくこととしています。

2-18 物価高騰に賃金アップが追いつかない今、史実性に忠実な復元が必要か。2026年アジアパラ大会の開催地でもあり、バリアフリーは必要だと思う。

回答 名古屋城天守閣整備事業の目的・意義は、「特別史跡名古屋城跡の本質的価値の向上と理解促進」であり、内部を含めて可能な限り史実に忠実に木造天守を復元し、江戸期の名古屋城本丸を体感できる歴史的・文化的空間を蘇らせることで、我が国の優れた文化と歴史、技術をより深く知ってもらうこと等としており、文化庁の復元の基準に基づき、外観のみならず内部の意匠・構造等を含めて、可能な限り史実に忠実に天守を復元するとともに、多くの方に木造天守の歴史的・文化的空間を体感していただけるよう、必要な現代設備を付加することとしています。

特に、社会要請としてバリアフリーは重要であり、共生社会の実現を目指す現代における歴史的建造物の復元として、多くの方に天守を観覧していただけるよう、事業目的の範囲で環境の整備を行う必要があると考えており、史実性との両立を目指してまいります。

3 「石垣等遺構の保存」に関する質問等

3-1 石垣こそ価値があるものであり、この保存と再構築を大前提とすべき。

回答	天守閣整備事業が予定されている範囲の天守台及び周辺石垣において、これまで文化庁や有識者からの指摘を受けて必要な調査を重ねてきた結果、劣化がかなり進んでいる部分があることなどの課題があり、有識者から早期に保存対策を実施する必要があるとのご意見もいただいていることから、順次保存対策工事を行っています。
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3-2 石垣の保存は絶対であり、現在の天守閣を壊す際に石垣が崩れるなら、現在の天守閣の耐震化の方が良いと思う。

回答	天守閣整備事業が予定されている範囲の天守台及び周辺石垣において、これまで文化庁や有識者からの指摘を受けて必要な調査を重ねてきた結果、劣化がかなり進んでいる部分があることなどの課題があり、有識者から早期に保存対策を実施する必要があるとのご意見もいただいていることから、順次保存対策工事を行っています。
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3-3 名古屋城の石垣は築城当時の姿を残す貴重な文化財としての特別遺跡のため、修復して適切な保存が必要と考える。まずは、石垣等遺構の構築・完成を済ませてから、実施すべきと考えるが如何か。

回答	天守閣整備事業が予定されている範囲の天守台及び周辺石垣において、これまで文化庁や有識者からの指摘を受けて必要な調査を重ねてきた結果、劣化がかなり進んでいる部分があることなどの課題があり、有識者から早期に保存対策を実施する必要があるとのご意見もいただいていることから、順次保存対策工事を行っています。
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3-4 石垣等遺構の保存に必要な予算や今までかかっている費用は、どれだけか。

回答	天守閣整備事業が予定されている範囲の天守台及び周辺石垣においては、技術提案交渉方式による公募型プロポーザルにより選定された優先交渉権者である竹中工務店と取り交わした基本協定に基づく事業費に含まれています。 これまでの支払い済額は、令和6年度決算において、石垣の調査・設計・工事で、約7億3千万円になります。
----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3-5 「跳ね出し架構に代わる基礎構造」案について現状はどうなっているのか。

回答	基礎構造の検討状況につきましては、穴蔵石垣の局所的な調査を踏まえ、名古屋城公式ウェブサイトで公開している木造天守整備基本計画（案）の第8章 P5-6 において現時点で実現可能と想定される検討例を整理しています。 最終的な基礎構造につきましては、現天守閣解体後に、穴蔵石垣の詳細な調査を行ったうえで検討し、確定することとしています。
----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 「現天守閣の価値の継承」に関する質問等

4-1 現天守は国宝天守焼失後、市民の要望で建てられた。そのこと自体が名古屋城の重要な歴史であり、戦争の無益さの象徴として、現天守こそ残すべき財産と思う。

回答	<p>戦後、鉄骨鉄筋コンクリート造で再建された現在の天守閣は、平成8年度及び平成22年度に耐震診断を行ったところ、「地震の振動及び衝撃に対して、倒壊又は崩壊する危険性が高い」という極めて低い耐震性能であることがわかりました。また、コンクリートの中性化の進行、設備の老朽化、外壁モルタルの剥離の恐れなどの課題もあります。</p> <p>耐震改修などにより現天守閣を存続させる方法もありますが、本市といたしましては、特別史跡名古屋城跡の理解、活用にとって適切かつ積極的な意味を持つかという観点で、耐震改修による現天守閣存続と木造復元等を比較衡量した結果、可能な限り史実に忠実な復元がされた天守は、先に復元された本丸御殿とともに、本質的価値の向上と理解促進にとって大きな効果が得られることから、天守を木造復元するという方針にしています。</p> <p>現天守閣は新しい時代に即した天守閣を再建した戦後という一時代を象徴する建造物であり、本市のシンボルとして市民の愛着や誇りを醸成し、都市のイメージを対外的に発信し続けてきた意義が大きいことから、現天守閣を市民の記憶に留め、現天守閣の記録・記憶を後世につないでいくため、再建当時の図面、写真、新聞等記録の保存や市民の皆様等の思い出のアーカイブ化等の取り組みを検討しています。</p>
----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4-2 現天守閣こそが戦災で焼け落ちた天守閣を市民の浄財で再建したという、名古屋市民の誇りであり、登録有形文化財とすべき。

回答	<p>耐震改修などにより現天守閣を存続させる方法もありますが、本市といたしましては、特別史跡名古屋城跡の理解、活用にとって適切かつ積極的な意味を持つかという観点で、耐震改修による現天守閣存続と木造復元等を比較衡量した結果、可能な限り史実に忠実な復元がされた天守は、先に復元された本丸御殿とともに、本質的価値の向上と理解促進にとって大きな効果が得られることから、天守を木造復元するという方針にしています。</p> <p>現天守閣は新しい時代に即した天守閣を再建した戦後という一時代を象徴する建造物であり、本市のシンボルとして市民の愛着や誇りを醸成し、都市のイメージを対外的に発信し続けてきた意義が大きいことから、現天守閣を市民の記憶に留め、現天守閣の記録・記憶を後世につないでいくため、再建当時の図面、写真、新聞等記録の保存や市民の皆様等の思い出のアーカイブ化等の取り組みを検討しています。</p>
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4-3 当時も木造の設計図があったが、二度と火災で燃えないようにという市民の思いから鉄筋コンクリート造りになったものなので、簡単に壊してほしくない。

回答	<p>現天守閣は新しい時代に即した天守閣を再建した戦後という一時代を象徴する建造物であり、本市のシンボルとして市民の愛着や誇りを醸成し、都市のイメージを対外的に発信し続けてきた意義が大きいことから、現天守閣を市民の記憶に留め、現天守閣の記録・記憶を後世につないでいくため、再建当時の図面、写真、新聞等記録の保存や市民の皆様等の思い出のアーカイブ化等の取り組みを検討しています。</p>
----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4-4 博物館としての機能と外観の継承をしていただきたい。

回答	<p>金シャチ横丁の第2期整備として、名古屋城博物館（仮称）及びその周辺区域の整備を検討しています。</p> <p>名古屋城博物館（仮称）は、名古屋城の歴史や特別史跡としての本質的価値・魅力を伝える城に関する総合的な博物館を想定しています。今後、更なる整備が進む特別史跡名古屋城跡と一体となって、当地域における歴史文化観光の拠点となることを目指し、本博物館を中心としたエリア一帯の整備を実施してまいります。</p>
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4-5 現天守閣を耐震改修して保全することこそ、価値の継承そのものである。なぜそうしないのか。

回答	<p>耐震改修などにより現天守閣を存続させる方法もありますが、本市といたしましては、特別史跡名古屋城跡の理解、活用にとって適切かつ積極的な意味を持つかという観点で、耐震改修による現天守閣存続と木造復元等を比較衡量した結果、可能な限り史実に忠実な復元がされた天守は、先に復元された本丸御殿とともに、本質的価値の向上と理解促進にとって大きな効果が得られることから、天守を木造復元するという方針にしています。</p>
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4-6 名古屋市はなぜ現天守閣について国の登録有形文化財への登録申請を行わないのか。木造復元という目的のために、現存する歴史資産の価値をどのように評価し、整理しているのか。

回答	<p>現天守閣は、精度の高い外観復元が行われ、戦災によって失われた名古屋のシンボルを、正確に外観復元したことにより、市民の愛着や誇りを醸成するとともに、この地域の観光振興に寄与し、高度成長していく街の姿を見守りながら、名古屋という都市のイメージを対外的に発信し続けてきたことの意義は大きいと認識しています。</p> <p>一方で、現在の天守閣は、平成8年度及び平成22年度に耐震診断を行ったところ、「地震の振動及び衝撃に対して、倒壊又は崩壊する危険性が高い」という極めて低い耐震性能であることがわかりました。また、コンクリートの中性化の進行、設備の老朽化、外壁モルタルの剥離の恐れなどの課題もあります。</p> <p>耐震改修などにより現天守閣を存続させる方法もありますが、本市といたしましては、特別史跡名古屋城跡の理解、活用にとって適切かつ積極的な意味を持つかという観点で、耐震改修による現天守閣存続と木造復元等を比較衡量した結果、可能な限り史実に忠実な復元がされた天守は、先に復元された本丸御殿とともに、本質的価値の向上と理解促進にとって大きな効果が得られることから、天守を木造復元するという方針にしています。</p> <p>また、現天守閣は新しい時代に即した天守閣を再建した戦後という一時代を象徴する建造物であり、本市のシンボルとして市民の愛着や誇りを醸成し、都市のイメージを対外的に発信し続けてきた意義が大きいことから、現天守閣を市民の記憶に留め、現天守閣の記録・記憶を後世につないでいくため、再建当時の図面、写真、新聞等記録の保存や市民の皆様等の思い出のアーカイブ化等の取り組みを検討しています。</p>
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5 「市民等の理解促進と機運醸成」に関する質問等

5-1 エレベーターなどバリアフリーと本格的木造で市民の間に意見が大きく分かれているなら、無理して木造再建はしない方がよいと思う。

回答	<p>名古屋城については、明治初期、全国の城が廃城されていく中、姫路城とともに日本の城郭の見本であるとして永久保存されることになりました。また、名古屋城は、戦災により天守や本丸御殿をはじめ焼失してしまいましたが、先人たちの努力により豊富な史資料が残されています。</p> <p>そのことから、平成30年6月に復元した本丸御殿や現存する隅櫓、門のほか、将来的には復元が可能なものは段階的に復元することで、名古屋城の象徴である本丸を江戸期の姿に再現し、特別史跡名古屋城跡の歴史や魅力を実体験していただける場所としていくこととしています。</p> <p>昇降設備等にかかるバリアフリーの検討にあたりましては、技術的な側面や、遺構等保存の観点での影響等を含めて、当事者参画の場である「バリアフリー整備相談支援事業」を活用し、当事者の皆様との建設的な対話による相互理解のもと、方針をとりまとめて行くとともに、皆様の理解をいただけるよう進ちょく状況について情報発信に努めてまいります。</p>
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5-2 いまだに竣工の見通しも立たない木造復元に、市民の機運醸成など不可能。木造復元は本当に可能か。

回答	<p>事業の推進にあたりましては、より多くの方に天守閣整備事業をご理解いただき、応援していただくため、名古屋城に関心を寄せていただける機会を広げていく必要があると考えています。</p> <p>そのために、分かりやすい情報発信に努めるとともに、市内外のイベント等、さまざまな機会を捉え、機運醸成の取り組みについて実施してまいりたいと考えています。</p>
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5-3 市民などの理解促進と機運醸成には、具体的にどういったことを実施しようと予定しているか。名古屋市の予定に反した市民の意見を尊重しながら追加していくことを希望する。

回答	<p>具体的な取り組みとして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民説明会及びシンポジウムの開催 ・名古屋城公式ウェブサイトにおける情報発信 ・機運醸成イベントの実施 ・現天守閣の芳名板の活用 ・デジタル技術を活用した映像制作 ・階段体験館（ステップなごや）の有効活用 に取り組んで行くことを検討しています。
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

今後も、事業進ちょく等を皆様に広くお伝えし、ご意見をいただけるよう説明会を開催します。

5-4 会場での発言をなくすような今回の開催方法は、「市民等の理解促進と機運醸成」に逆行するのではないかと。来年度の市民説明会の回数予定、会場からの意見を聞くかどうかの方針は。

今回の説明会の運営方法につきましては、令和5年6月の「名古屋城バリアフリーに関する市民討論会」における差別事案の発生後、初めての開催であることを踏まえ、同様の問題を再発させないための対応といたしまして、本市といたしましては、従来の形式とは異なり、開会中の質疑応答は行わず事前の質問受付としました。

説明会につきましては、市民の皆様に対して事業の進ちょくをお伝えし、事業へのご理解を深めていただくとともに、機運を高めるうえで大切であると認識しており、今後も継続的に開催していくべきだと考えています。

一方で、事業の進ちょくに合わせて開催をすべきものであることから、現段階において、いつ、どこで、何回開催するかを申し上げられるものではございません。

今回の開催を踏まえ、事業進ちょく等を皆様に広くお伝えできるよう、よりよい開催方法を思案しながら今後も市民説明会を開催します。

決算額

令和6(2024)年度	2,977,383円※
令和5(2023)年度	3,059,214円※
令和4(2022)年度	18,006,954円
令和3(2021)年度	9,025,097円
令和2(2020)年度	16,248,372円
令和元(2019)年度	62,495,813円
平成30(2018)年度	18,244,534円
平成29(2017)年度	17,088,382円※

※天守閣寄附金の募集として計上

寄附額

令和6(2024)年度	62,499,809円
令和5(2023)年度	22,480,698円
令和4(2022)年度	190,972,470円
令和3(2021)年度	103,546,008円
令和2(2020)年度	78,604,761円
令和元(2019)年度	62,495,813円
平成30(2018)年度	131,783,050円
平成29(2017)年度	207,357,485円

回答